

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）

提出区分		実績	整理番号	6	課題区分	C
横断的な課題		環境にやさしく自然災害に強い地域づくりの推進				
地域重点政策		大規模災害の経験を生かし「自然災害に強い持続可能な長野地域」をつくる				
実施機関		長野地域振興局		担当課	所属	環境・廃棄物対策課
事業名		長野地域版2050ゼロカーボン普及啓発事業			電話	8-245-2124
					E-mail	nagachi-kankyo@pref.nagano.lg.jp
事業概要等	目的 (目指す姿)	「2050ゼロカーボン」達成に向け、長野地域の住民の「2050ゼロカーボン」に対する認知度を更に高め、再エネ・省エネの取組を一層浸透させる。				
	現状と課題	・「長野県ゼロカーボン戦略(計画期間:2021～2030年度)」に掲げる2030年度の温室効果ガス排出削減目標に対し、現状ペース(2022年実績ベース)の進捗では126万t-CO2不足し、目標達成が困難なことが判明している。このため、県民一人ひとりの取組を促進するための普及啓発が重要となっている。 ・現状では、県補助金等による住宅への太陽光発電設備支援、ゼロカーボンミーティングの開催、その他普及啓発イベントにより、「2050ゼロカーボン」の認知度は向上しつつあるが、具体的に何をどう取り組みればよいかわからないという人が依然として多い。 ・2050ゼロカーボン達成のためには、皆が少しずつエコ活動に取り組むことが必要であるが、何から取り組んでよいかわからないという人に対して、取組をはじめるきっかけづくりが必要である。				
	内容 (変更後の内容)	(1)「2050ゼロカーボン」取組促進アイデア募集 ・ゼロカーボンキャッチフレーズ等の募集を通して「2050ゼロカーボン」の必要性や具体的な取組についての理解を促す。効果的な作品を普及啓発物品に記載するキャッチフレーズとして採用する。 (2)「2050ゼロカーボン」の普及啓発 ・(1)の作品を用いた普及啓発物品(エコバッグ、バイオマスうちわ)を製作し、応募者のうち採用された方に景品としてプレゼントする。 ・「2050ゼロカーボン」の認知度を高め、具体的な取組を促進するため、イベント会場やインターネット上でゼロカーボンの取組について広く情報発信を行う。 (3)「2050ゼロカーボン」の普及啓発 ・一般県民を対象に、ゼロカーボンやごみ減量などのエコ活動と呼びかけ、生活に取り入れやすいエコ習慣を紹介し、地球温暖化防止への意識向上を図る。 ・ゼロカーボンキャッチフレーズ入り普及啓発物品および法被を作成し、イベント等での普及啓発活動に使用する。 ・制作した物品は、各種イベント等の来場者へ普及啓発物品を配布予定。 ・法被は局内各課へ貸し出しを行う。 ・ブログ等で情報発信を実施。 効果:エコ活動への参加促進、ゼロカーボン社会実現に向けた行動変容、ごみ減量・省エネ習慣の定着。				
	事業期間	令和7年11月 ～ 令和8年3月				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等		実施内容	計画(実績)額	備考	
	(1)「2050ゼロカーボン」取組促進アイデア募集		ゼロカーボンキャッチフレーズ等の募集	196,229	委託料(企画・運営等経費@16,000×6人=96,000円、企画、打ち合わせ補助@12,000×4人=48,000円、諸経費34,390円、消費税17,839円)	
	(2)「2050ゼロカーボン」の普及啓発		普及啓発物品の企画・製作	298,221	委託料(原稿作成@16,000×2人=32,000円、発送等12,000円、バイオマスうちわ製作@200×300個=60,000円、エコバッグ製作@457×230個=105,110円+デザイン一式60,000円、送料1,000円、雑費1,000円、消費税27,111円)	
	(3)「2050ゼロカーボン」の普及啓発		普及啓発物品、法被の企画・制作	284,174	需用費(風船(1000個)63,470円、トレレフォルダ(1000枚)90,200円、法被(10枚)74,470円、のぼり旗34,100円、ポンプ等21,934円、消費税込み)	
合 計			778,624			
指標及び達成状況	成 果 指 標			目標値	成果	達 成 状 況
	取組促進アイデア募集への参加者数			100人以上	166人	◎ 達 成 ○ 一部達成 ○ 未 達 成
	取組促進アイデアに対するリアクション数			200人以上	214人	
	エコ活動広報に対するリアクション数(2～3月)			20件以上	20件	
事業実績・成果	(1)「2050ゼロカーボン」取組促進アイデア募集 取組促進アイデア募集として、キャッチフレーズ、川柳、私のゼロカーボン部門を設定して普及啓発物品に使用するための作品募集を行った。アイデア募集の実施について、県公式Xで情報発信し、また、長野県公式LINEで参加を呼び掛ける記事を配信したことにより、目標値を上回る参加者を得ることができた。作品を考える過程を通じて、ゼロカーボンについて学び、理解を深めてもらうことができた。 (2)「2050ゼロカーボン」の普及啓発 (1)で募集した応募作品はプレスリリース、公式ブログで紹介した。応募作品のうち優れたもの2作品を審査により選び、普及啓発物品を作成し、採用者へ贈呈した。応募者のアイデアを紹介することにより、各々の取組のきっかけとすることができた。 (3)「2050ゼロカーボン」の普及啓発 「推し活」をテーマに結成された、ごみゼロとゼロカーボンを推す「同担歓迎！ゼロ推し隊」のオリジナルの法被とのぼり旗等の普及啓発物品を制作した。法被は「ゼロカーボンミーティングin長野」においてスタッフ、登壇者が着用し、「ごみゼロ」「ゼロカーボン」への興味関心を促すことができた。					
	今後の方向性	長野地域の住民の「2050ゼロカーボン」に対する具体的な取組を促進するため、引き続き効果的な方法を探りながら普及啓発事業を実施する。				